

改訂版「お茶大インデックス」(雇用環境整備指標)を用いた教育研究機関の雇用環境評価 2021年度 結果

改訂版「お茶大インデックス」を用いた教育研究機関の雇用環境評価を実施した。調査概要は以下の通り。

調査実施日：2022年2月16日(火)～2022年3月11日(金)
 調査方法：Excelで回答可能な改訂版「お茶大インデックス」をメールにて送付し、Ploneを用いて評価結果と活用方法についてのアンケート調査を実施。
 配布機関：科学技術振興調整費・女性研究者支援モデル育成事業(H18～H22)採択機関、及び女性研究者研究活動支援事業選定機関(H23～R3)計105機関のうち連絡が可能であった102機関
 回収数：42機関(回収率41.2%)

改訂版「お茶大インデックス」評価結果 42機関の回答割合と特徴

42機関の改訂版「お茶大インデックス」の評価結果について、50項目それぞれに3つの選択肢の回答割合を算出した。各項目の回答割合を用いて図1を作成した。

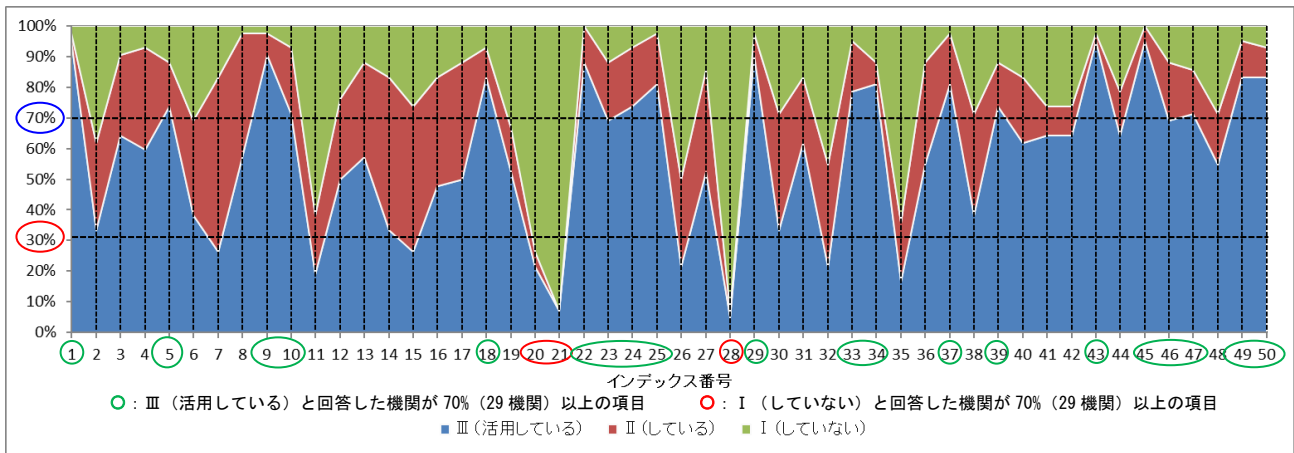


図1. お茶大インデックス評価結果(全42機関、回答割合)

42機関における活用度の高い取組(Ⅲ.活用している)と回答した機関が70%以上の項目、低い取組(Ⅰ.していない)と回答した機関が70%以上の項目)は以下の通り。(カッコはインデックス番号を示す)

- 活用度の高い取組** (『Ⅲ.活用している』の回答割合が70%以上) ※赤字は前回調査時(2020年度)には含まれなかった項目を示す。
- | | |
|--|--|
| (1) 女性研究者を支援する組織(本部、室、センター、部門など)の設置 | (33) 研究者支援の取組状況や成果を発信するためのホームページの設置 |
| (5) 女性を積極的に採用する制度や仕組みの導入 | (34) 子育てや介護に関わる手続きや利用可能な支援を紹介するための冊子(WEBでの紹介含む)作成 |
| (9) 女性研究者を支援するための予算の配分 | (37) 女性研究者を支援するための他キャンパス・他機関・地域とのネットワーク連携、コンソーシアム設置 |
| (10) 業務を効率化するための取組 | (39) 女性研究者増に関わる女子中高校生、女子大学生向け授業・セミナー(ラボ見学、インターンシップ含む)の開催 |
| (18) 保育施設(一時保育含む)やベビーシッター手配のための支援(経費支援・利用補助券配布含む) | (43) 機関内向け研究者支援に関わる情報発信(メール・広報誌・掲示・WEB) |
| (22) 育児期における柔軟な勤務体制の導入(時短勤務、在宅勤務など) | (45) ハラスメントを防止するための取組 |
| (23) 育児期における職務軽減制度(非常勤講師配置制度、代替要員配置制度含む)の導入 | (46) 男性向け子育て・介護支援に関する意識啓発 |
| (24) 在宅勤務を可能にするユビキタス環境整備(ネット対応、TV・WEB会議等) | (47) 管理職向け働き方や両立支援に関する意識啓発 |
| (25) 次世代育成支援対策行動計画や女性活躍推進対策行動計画、一般事業主行動計画の機関内外への周知 | (49) ダイバーシティ&インクルージョンを理解するための意識啓発 |
| (29) 研究者を支援するための研究補助者(支援員)の配置 | (50) ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた意識啓発 |

- 実施度の低い取組** (『Ⅰ.していない』の回答割合が70%以上)
- | | |
|---------------------------------------|----------------------------------|
| (20) 学童保育施設の設置(期間限定開設、他機関との連携も可) | (28) 学生・院生に対する子育て支援のための育児奨学金制の導入 |
| (21) 子育てを支援するための機関内宿泊施設の整備(他機関との連携も可) | |

「Ⅲ.活用している」の回答割合が70%以上を示した項目は、2020年度調査にも確認されたインデックス番号(1)、(5)、(9)、(18)、(22)、(25)、(29)、(33)、(37)、(39)、(43)、(45)、(47)、(49)、(50)の15項目と、今回新たにインデックス番号(10)業務を効率化するための取組、(23)育児期における職務軽減制度(非常勤講師配置制度、代替要員配置制度含む)の導入、(24)在宅勤務を可能にするユビキタス環境整備(ネット対応、TV・WEB会議等)、(46)男性向け子育て・介護支援に関する意識啓発、の4項目が加わり、計19項目となった。

2021年度の特徴として、インデックス番号(24)在宅勤務を可能にするユビキタス環境整備(ネット対応、TV・WEB会議等)の実施状況の変化が挙げられる。2019年度から2021年度における実施状況の経年変化を確認したところ、2019年度調査では38機関中「活用されている」の回答が21.1%(8機関)、「している」の回答が23.7%(9機関)、「していない」の回答が55.3%(21機関)であり、「していない」の回答割合が5割以上を占めていた。2020年度調査では43機関中「活用されている」の回答が67.4%(29機関)、「している」の回答が14.0%(6機関)、「していない」の回答が18.6%(8機関)となり、「活用されている」の回答割合が7割近くとなった。2021年度調査では42機関中「活用されている」の回答が73.8%(31機関)、「している」の回答が19.0%(8機関)、「していない」の回答が7.1%(3機関)となり、「活用されている」の回答割合はさらに増加し、7割以上を占めた。この結果から、3年間でユビキタス環境は大きく変化していることがわかる。この変化を招いた一因として2019年度末より続く新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のまん延が挙げられる。2021年度調査時点においても終息の見通しは立たないことから、今後ユビキタス環境の整備は定着し、終息後も継続的に活用されると考えられる。

さらに、「次世代育成の取組(女性研究者の裾野拡大の取組)(インデックス番号39~42)」と「意識啓発の取組(インデックス番号43~50)」の評価結果においても特徴的な傾向が認められた。

「次世代育成の取組(女性研究者の裾野拡大の取組)(インデックス番号39~42)」の評価結果について、2019年度から2021年度の経年変化を確認したところ、インデックス番号(41)女子中高校生向け女性研究者ロールモデルとの交流会の開催では「Ⅲ.活用されている」の回答状況(回答率)が2019年度は76.4%、2020年度に72.1%となり、2021年度には64.3%まで減少した。インデックス番号(42)女子中高校生向け女性研究者増に関わるイベント・シンポジウムの開催についても「Ⅲ.活用されている」の回答状況(回答率)が2019年度は71.1%、2020年度は67.4%、2021年度は64.3%と減少傾向が認められた。これらは、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のまん延による対面式集合型イベントの相次ぐ中止が一因になったと考えられる。

一方、「意識啓発の取組(インデックス番号43~50)」の評価結果における2019年度から2021年度の経年変化を確認したところ、インデックス番号(49)ダイバーシティ&インクルージョンを理解するための意識啓発では「Ⅲ.活用されている」の回答状況(回答率)が2019年度は81.6%、2020年度に81.4%、2021年度には83.3%と維持・向上の傾向が認められた。2021年度の意識啓発の取組(インデックス番号43~50)に対する評価結果を見ると、8項目のうち7項目において「Ⅲ.活用している」の回答割合が70%以上を示した。

「次世代育成の取組(女性研究者の裾野拡大の取組)(インデックス番号39~42)」は2019年度から2021年度にかけて「Ⅲ.活用されている」の回答状況(回答率)は減少傾向を示していたが、意識啓発の取組(インデックス番号43~50)については維持・増加傾向を示した。この結果の要因を考察すると、「次世代育成の取組」は組織外からの参加者を募り、対面式集合型イベントにて実施されることが多いが、「意識啓発の取組」は組織内や関係者に限定した対面式集合型研修やユビキタス環境整備による研修のオンライン化が促進・定着したことにより「Ⅲ.活用している」の回答率は維持・増加傾向を示したと考えられる。

実施度の低い取組は、2020年度調査と変わらず「学童保育(インデックス番号20)」、「宿泊施設の設置(インデックス番号21)」、「奨学金制度の導入(インデックス番号28)」であった。これらの結果から、女性研究者支援事業に採択された教育研究機関では雇用環境の整備・定着が着実に促進し、各取組が実効性をもって継続的に実施されつつあるものの、COVID-19の影響によって実施状況は大きく変化することが明らかとなった。なお、子育て中の学生への経済的支援、設置場所の確保や多くの資金が必要な取組については未だ実施困難であり、支援方法の見直しや評価項目の再検討が必要といえよう。

改訂版「お茶大インデックス」2021年度 評価結果 総合得点一覧

改訂版「お茶大インデックス」2021年度の評価結果(表1)を総合得点の降順に示す。総合得点の平均点は68.1点(前回調査時より2.6点増)、最高点は88点(1点減)、最低点は23点(11点減)であった。

表1. 改訂版「お茶大インデックス」 評価結果 (総合得点降順)

ID	「お茶大インデックス」得点							
	総合得点	1.学術的支援体制		2.女性研究者支援		3.情報支援	4.意識啓発	
		組織	勤務体制	子育て支援	研究教育支援	情報支援とネットワーク構築	次世代育成の取組	意識啓発の取組
035	88	18	11	7	21	11	4	16
026	85	17	11	7	16	10	8	16
070	84	13	9	10	19	10	8	15
071	84	17	11	6	19	9	8	14
076	84	16	9	10	16	10	8	15
045	82	16	6	8	16	12	8	16
025	81	14	6	8	18	11	8	16
054	80	14	7	9	17	11	8	14
024	79	16	10	8	17	8	6	14
028	79	16	7	6	16	12	8	14
031	77	17	9	3	16	8	8	16
030	76	13	10	6	17	8	8	14
079	76	14	9	8	15	10	5	15
047	75	17	8	6	13	9	8	14
068	75	11	8	8	15	11	8	14
お茶の水女子大学	74	15	9	7	15	10	8	10
074	74	12	8	9	17	7	7	14
007	73	13	10	9	14	6	6	15
061	72	12	10	6	13	7	8	16
018	70	12	6	8	16	8	8	12
067	70	14	8	10	14	7	3	14
077	70	12	8	4	15	8	8	15
016	69	17	10	5	15	4	2	16
033	69	12	6	10	15	8	8	10
083	68	17	7	5	8	8	8	15
019	67	13	6	6	17	10	4	11
087	67	14	8	5	16	4	4	16
003	65	14	9	3	16	8	2	13
036	64	13	8	2	9	8	8	16
051	64	16	3	3	10	11	6	15
039	63	7	7	10	14	6	4	15
069	63	14	5	4	14	11	1	14
006	62	13	4	3	12	10	8	12
044	62	13	1	7	14	9	6	12
022	57	7	6	8	14	8	0	14
063	57	13	6	3	10	8	5	12
041	55	11	7	8	14	6	0	9
059	52	11	5	2	8	6	8	12
058	48	7	5	4	12	8	4	8
014	42	9	0	4	12	6	0	11
053	37	10	4	4	9	5	0	5
088	23	3	1	4	5	0	8	2

自己評価結果は「機関名を表示しない」ことを条件に本学に提出いただいているため、機関名の表示は本学のみとし、その他の機関は全てID表示としている。例年、評価結果報告には総合得点上位10機関・下位10機関の評価特徴や支援バランスの特徴などを掲載しているが、調査開始年度(2010年度)から今年度(2021年度)までにおける11年間の経年変化と2021年度の支援バランスの特徴をまとめた論文を別途準備しているため、本報告書には掲載していない。何卒ご了承ください。公開準備が整い次第、本学グローバルリーダーシップ研究所WEBサイトにて報告する。

本調査を実施するにあたり、42機関の教育研究機関の皆様にご協力を賜った。心より感謝の意を表す。